桜女の姫君

第三回

森谷明子　川野隆司 絵

〈前号のあらすじ〉

桜を切ろうとした皇后の女房たちを止めた那珂姫は、尚侍や姉の桜女御からは歓迎される。桜女御と語らっているところへ、帝と第二皇子の二の宮が現れる。二の宮の生母は、桜女御。帝は、皇后御殿の藤の花宴の誘いに。ある日、気弱な桜女御は、身分の低い友のことで二の宮を咎める。母にも言えなかった心の秘密を、那珂姫に打ち明ける。

ずっと思いつめた様子だった桜女御（さくらのにょうご）が、宮中から出て静養したいと那珂姫（なかひめ）に告げたのは、夏が終わる頃だった。

「少し疲れました。親しい僧の元でゆっくりしたいのです」

「あの、二の宮は？」

「もちろん宮中にいていただかなくては。ですから那珂姫、あなたが宮中に残り、二の宮のお世話をしてくださいな」